

SDGs Front Runners

— SDGsの現場で活躍する大学生と卒業生 —

大学で学んだ知識やスキルを存分に生かし、
SDGsの担い手として持続可能な未来社会をつくり出そうとする若者たち。
彼らは眼前の課題に立ち向かう策を自ら立案し、国内外で実践している。

滋賀県立大学

中野 優

(株式会社 iop デザイン 阪急阪神

環境科学部 環境計画学科 環境・建築デザイン専攻)

2007年度卒業 近江環人(コミュニティ・アーキテクト)第3期生

※現 環境科学部 環境建築デザイン学科

私とSDGsを最初に結び付けたのは大学時代の学びです。空き家の活用を通じたまちづくりプロジェクトに参加し、古民家をシェアハウスやコミュニティハウスに改修。学生や地域の人が交流できる場を生み、何歳になっても生きがいを持てる地域になるよう活動しました。当時はSDGsという言葉はありませんでしたが、常に地域や取り組みが持続可能かどうかを意識しました。

大学院卒業後、別の職を経てiop都市文化創造研究所に就職。多分野のプロのクリエイターに子どもが学ぶ機会を創出したり、シニア男性限定の料理教室を開講したりするなど、創造教育や生涯学習に関する企画に携わりました。現在勤めるライフデザイン 阪急阪神では、企業や自治体から受託した地域課題解決事業や地域のコミュニティスペースの運営などに携わって

人をつなぐ場づくりが、
持続可能な社会の一助に



います。女性のキャリア支援事業では、企業とのマッチングや教育講座を実施し、社会に復帰しやすい環境の整備に奔走しています。持続可能な地域社会を目指して、私は人をつなぐ場づくりに努めてきました。それが、私なりのSDGs達成に向けた活動なのです。SDGsと聞くと、自分に関係ない大きな目標のように感じますが、誰でも身近にできることがたくさんあります。近所の方に話しかけて地域のコミュニティを広げるのも1つの手。私たち一人ひとりが関心を持って向き合うことがSDGs達成への近道でしょう。